

木馬会会報 (第82号)

マイルチャンピオンシップ特集



97/11/14

～木馬達の予想～

本紙 トゥインクルダンディ

◎トーヨーレインボー ○タイキシャトル ▲スピードワールド

△ジェニュイン、スギノハヤカゼ、ロイヤルスズカ、エイシンガイモン

人気もわかれそうだし、ここは高配当が狙えそう。

とりあえずジェニュインとスピードワールドを比較対象に、4歳と5歳以上の能力差を考えよう。毎日王冠のジェニュインとスピードワールドは同タイムの僅差、その時の斤量差が4kg。共に距離短縮は望むところだけに、今回の2kg差ならジェニュインが逆転だろう。といってもその差はやはり僅かだし、前走のスピードワールドは休み明けのうえに不利あり。ということは4歳馬でも強ければ十分勝負になる計算だ。

勝負の軸はトーヨーレインボー。正直なところ、武豊騎乗もあり、◎スピードワールドと決めようと思ったところで気になってしまったのが、藤沢厩舎多頭出し。どうもこの馬、藤沢厩舎と相性が悪いような気がする(毎日王冠のタイキマーシャル)。不利は差し馬の宿命だけに、気にしてもしょうがないが、勝負は時の運、それなら不利が少しでも少なくなる前の馬で有力な馬は…いるじゃないか、トーヨーレインボー、そしてタイキシャトルだ。どちらを◎にするかだが、京都1,600のレコードホルダーに敬意を表してトーヨーレインボーにしよう。それなりに逃げ馬の揃ったマイル戦、それなりのペースになりそうだが、逃げなくても好位で能力発揮できるのも魅力。騎手は劣るが、馬は強い。タイキシャトルも魅力いっぱい。スワンSは着差以上に強い印象を受けた。トーヨーレインボーを大名マークでいけば逆転も可能だろう。

他では、1,400のスペシャリストという気はするが、スギノハヤカゼの京都コースとの相性の良さ、前走休み明けで好走したロイヤルスズカの差し(騎手も魅力)、前走で人気を落としたマイル巧者エイシンガイモンあたりだろうか。

(メニー氏へ)

社台おじさんのメニー氏は、今回もやっぱりジェニュインなんでしょうね。とにかく、頑張ってください。このままでは、最下位独走ですよ。

(ふえら君へ)

きみが本紙になる日もくるかもしれないくらい調子がいいですね。でもアメリカのために勉強してるの?かなり心配です。ちなみに、きみが冬にバイトをするお店がオープンしましたね、さっそくお客さんとして通ってます。YASUSAKIくんによく言っといてください。

栄蔵の一番弟子 TP

◎…タイキシャトル ○…トーヨーレインボー

△…ジェニュイン、オースミタイクーン、ロイヤルスズカ、スピードワールド、

キョウエイマーチ、スギノハヤカゼ

～TPの屁理屈～

今週はこの1レースに全力投球だ。気合いを入れて予想しますぞ。

展開から見ていくと、バーリンの回避で逃げ馬不在。さらにマーチ、サイレンス陣営が「押さえる」宣言をしているため、果たして何が逃げるのか?掛る気性のトーヨーレインボーか?いやいや、やっぱり一番掛るし、スピードも押さえが利かないサイレンスが押し出されるように逃げてしまうのではないのか?とにかくペースは速くならずMペースでレースは流れると予測する。そうすると、最後は切れ味勝負、菊花賞と同じような直線攻防が繰り広げられると見た!上位に来る馬は切れ味があるか、ダイワオーシュウのように勝負根性のある馬であろう。

さて、去年と同じく混戦が予想される中で1、2番人気となるであろうスピードワールドだが、この馬は出遅れるわけではなく、ダッシュがつかないのだ。だから、スタートさえ良ければという“タラレバ”の予想は全く無意味である。スタートは普通だが、そのあとが遅いのだから、後方からの競馬になるのはしょうがないのである。それでも勝てたのは3走前まで。一線級相手では3着がやっとであることは安田記念、毎日王冠を見れば明らかだ。確かにペースが落ち着くので捲るレースができそうだが、器用さのない馬で、多頭数の大外を捲りきってG1を勝てるほど甘くはないと思うし、それほど他の馬と力の差があるわけではない。それと、3着という前2走の結果から勝負根性が優れているとも言える。いくら武が上手く乗ったとしても△が妥当。走りは重戦車のようにビワハヤヒデに似ているが、だからこそ切れ味より、前に行つてのスタミナ勝負があつていそう。結構2400ぐらいの距離の方が良いと思うのだが。この後成長して、第2のホクトヘリオスにはならないことを願う。

では本命だが、前走の勝ち方に底知れぬ力を感じたタイキシャトル。ハヤカゼが来てから更に加速したように、あれでまだ本気で走ってないような気がする。とにかく4歳～5歳の前半までは、強い時は強い外国産馬。器用さもあり、先行差しの脚質も安定し、結構固い軸馬のような気がする。対抗に、重賞に勝ってないのがちょっと気になるが、トーヨーレインボー。前走圧勝とはいえ、確かに相手は弱かった。だが、ここ数年好成績を収めているアイルランドT組。軽い相手で体力を消耗しないのがいいのか。これだけどの馬も逃げたくない宣言をしているなら、一線級相手に揉まれた経験がないこの馬は、かえって逃げてしまったほうが良いんじゃないか。内側も通れるし。Mペースで押し切れるだけのスピードは持っているはず。

去年の覇者、ジェニュインは恵まれたG1で勝てるレベルのSS産駒大関である。去年は相手に恵まれたのと岡部騎乗で勝てたが、今年は去年よりかなりレベルが上だ。しかし、直線までスムーズに行けて先頭集団の中に入れば無類の勝負強さを見せる馬で、乗り方次第で連には十分絡めるだろう。オースミタイクーンはここに来てようやくコンスタントに力を出せるようになり、以前のオープン大将から脱皮したようだ。1600に伸びることもプラス材料で、何気に消してはいけなさと私の第六感が訴える。ロイヤルスズカは末脚勝負型で、一瞬の切れで勝負するタイプ。しかし今回はペースが速くならないため、いつもよりは前につけられるはずだし、安定した末脚を繰り出す馬で南井騎乗で浮上のケースも。キョウエイマーチはこれだけ各陣営が逃げない宣言をしているなら、思い切っていくべき。「中段から行く」

などともほざいており、G1でいきなりなれない戦法を採ってもだめだよ。この馬はダイタクヘリオスのようなレースが合っているはず。また、ここを目標なら本命にしてもいいほど強いと思うが、エリザベスを見ればわかるように、秋華賞で仕上げてしまった4歳牝馬はやはり本来の力を出せないようだ。本質はマイラーでマイルならとても強いと思うので、幹夫が開き直って逃げることを期待して一応印はつける。ハヤカゼは1400のスペシャリストで一瞬の切れで勝負するタイプだが、どうも今回はその一瞬の切れが生きるような気がして印をつけてあげよう。

印は回らないが、面白いのは芝初挑戦のバトルラインか。ダートでも詰めの甘いレースをしているが、今回は前に行ったほうが有利で、持ち前のしぶとさを生かせると見て馬券的には押さえる。シンコウキングは一応G1馬だがG1の中で最も権威のない高松宮杯勝ち馬。去年まではG1では足りないと思われていた馬で、それはさらに年取った今でも変わらない。前走も真のG1馬というには不甲斐なさ過ぎる。エイシンガイモンは持ちタイムは良いが、過去の戦績を見ればどうしてもローカル向き。強い相手の重賞を勝ったわけではない。サイレンススズカは今はまだ逃げなきゃだめ。G1でいきなり押さえても良い結果は出ない。

予告どおり2重賞やって2勝(根岸Sは紙上でいらないといっていたユーコーマイケルを最終的に3番手に取り上げた(理由:実力のない逃げ馬がいた為)のでプラスでした。ごめんなさい)で、何とか調子を整えた。今週はマイルCSだけやって、その後のラストスパートに備えます。現在の回収率90.3%

ふえら

天皇賞(春)のサクラローレル、天皇賞(秋)のバブルガムフェロー、エリザベス女王杯のダンスパートナー、すべて2連覇を成し遂げられなかった主人公達だ。そして今回のマイルチャンピオンも連覇を目指すヒーローがいる。そう我等がジェニュインだ。ジェニュインがやらずして誰がやる。僕の期待にはすごいものがある。しかしだ、相手は気まぐれのジェニュイン、そこまで信用していいものか。G1の連対率はかなり高いし、マイルも一番得意な距離であろう、体調もいいと聞く。が、どうしても気になることがある。最近悪い意味で大人になってしまったような気がする。今までの彼だったら秋の天皇賞を3着などという位置に手堅く収まらなかったであろう。あそこは惨敗するべきであった。ジェニュインよ、今回は昔のような無邪気な君に戻ってはいくれないか。もう寒くなってきたし冬休みはもうすぐだよ、気まぐれ走りを見せてくれ、惨敗したっていいじゃないか。そのためにちゃんとスピードワールドとの2軸買いにしておくから。

さて、その相手はとなると、まず世間を騒がせている4歳馬に注目してみよう。マイルでは確実に力を発揮するキョウエイマーチは確かに強いと思う、どうやらエリザベス女王杯の疲れもなさそうだし、牝馬が高い確率で絡んでくる過去の情報もありがたい、期待させて頂く。しかし、春からここを目標にやってきたスピードワールドの方が力・体調とも上手だと思われる。安田記念と比べれば力のいらぬマイルCSであるから、2連覇を狙うジェニュインと同じくらい期待はできる。では今が旬のタイキシャトル、トーヨーレインボーの2馬はどうか。両馬ともここ最近のレースでは強い印象を与えているが、いかにも相手に恵まれたような気がする。特にトーヨーレインボーは重賞初戦がこのG1、ちょっとという気もする。出てくるとは思わなかったサイレンススズカ。スピード的には評価が高く、前残りの場合を考えるとちょっと恐い気もするが、TP氏の番付け表で評価が低かったことによりあまり期待はしない。最後になるが古馬で注目しているのはただ1馬バトルライン、ダートで走る馬は芝でも十分走れる。オースミタイクーンなぞに負けることはあるまい。

ということでジェニュインの相手は、先行馬としてはサイレンススズカよりもキョウエイマーチ、旬

な馬としてはトーヨーレインボーよりもタイキシャトル、古馬ではオースミタイクーンではなくバトルラインを選びたい。

◎ジェニュイン、スピードワールドカップ

△キョウエイマーチ、タイキシャトル、バトルライン

当日より10時、日本がワールドカップ出場をかけてイランと戦う。もう何も言うまい。夢とはつかめるものだということを見せつけてやってくれ!

～ライスシャワシャワの予想はよそう～

◎：キョウエイマーチ、○：スピードワールド、▲：タイキシャトル

△：サイレンススズカ、トーヨーレインボー、ジェニュイン、オースミタイクーン

さて、今週はマイルCS。毎週堅い結果に終わっているのに当たっていない。「そろそろ何とかしないと…」と、焦るとよけい深みにはまるといった悪循環になりかけてます。

◎キョウエイマーチ。秋華賞では負けたが、あくまでも距離適性によるもので今回の方がミッキーも走らせやすいはず。初めて古馬、牡馬相手に戦うわけで普通に考えれば不利。しかし、そこは53キロという斤量がカバーしてくれる。また、距離は違うが、ニシノフラワーが古馬相手にスプリンターズSを勝ったように、マイル迄なら4才牝馬でも十分勝負になると見る。どうやらサイレンススズカが出るようなので、こいつを行かして2番手追走、そして直線早めの抜け出しという戦法で、なんとかゴール板まで我慢ができるのでは?

このレースは、古馬よりは4才の勢いの方が上。ということで相手も4才から。筆頭は○スピードワールド。この馬については、あれこれ言うこともない。毎日王冠では勝てるレースを落としたからか、的場が降ろされてしまった。その分的場はエリモシックで女王杯を勝ったわけだし、まあ、武が乗るのだから心配はない。しかし、今週の調教も乗る予定だったのに、エアグルーヴの調教に乗るから美浦には来なかった。ワールドよりグルーヴを選らんだのは事実。マイルCSよりJCを選んだと疑いたくなるが、そこまでひねくれることはあるまい。

3番手には、タイキシャトル。6戦5勝、2着1回と底を見せておらず、出走するたびに成長しているように思える。スワンSから200m距離が延長されるが、東京でマイルを勝っていることから、距離不安はない。話は違うが同じタイキのエルドラドとともに今後楽しみな馬である。

以下、まさかの逃げ残りサイレンススズカ、連勝中のトーヨーレインボー、何だかんだいっても好走するジェニュインが△。あとは、武弟オースミタイクーンが大穴。阪神向きのような気もするが、重賞初騎乗で勝った馬だし、妙にいいコンビである。もしかしたら、今回もG1初騎乗で...なんてことになるかもしれない。

予想はウソヨ 四国の井崎

強力4歳馬の大挙出走によってがぜんおもしろくなった今年のマイルCS。1人気の実績が素晴らしいこのレースだが、昨年のジェニュインでもそれが伝承された。京都の外回り1600mは枠順の差がなく実力がそのまま発揮される。スローペースになる心配もないし強いマイラーが勝つレースである。奇をてらった予想は必要ない。自信をもって予想しよう。

先週のエリザベス女王杯は時計評価をオミットしましたが、実はB-Aで決まっていた。今回は当然スピード指数は重要なファクターなのでPRJCT評価と併記してみます。

